

障害者と一緒に…歌やゲーム

ボランティア最前線

福祉部会

明生園もみじ会



参加者とボール遊びをする黒田さん(手前)と多田さん。①キーボードを弾く門脇さん。

「すごい！ホームランや」の声援に、A子さんは笑顔でガッツポーズ。ここは、しあわせの村内にある障害者支援施設「神戸明生園」(定員80)。雨もよの2月15日、「明生園もみじ会」(宮城智子代表・音2)の活動ぶりを取材しました。

じっと座っているのが苦手な人、自閉的傾向の強い人、身体障害を伴っている人…きょうの参加者15人が1階の空きスペースに椅子を並べて待っています。

10時過ぎ、門脇享子さん(福2)、黒田宏さん(国6)、多田ケイ子さん(一般)のスタッフ3人が到着。プログラムの打ち合わせを済ませ、テキパキと準備を進めていきます。

10時30分、歌からスタート。「雪やこんこ」「さっちゃん」に続いてリクエストの「手のひらを太陽に」。雰囲気はほぐれ、声も出るようになります。東北支援の「花は咲く」に合わせて、門脇さんが手品を披露。きれいな花を咲かせた後は、手遊び歌を3曲楽しみました。

続いてビーチボールにプラスチックのバットを使っ

てのボール遊びです。ボール投げで身体をほぐし、1人ずつバッターボックスへ。ピッチャーは黒田さん。「いけ～！もう1回」「ナイス」「ホームランよ」と声援が飛びます。ヒットが出ると、バッターも大はしゃぎです。最後に参加者も職員もスタッフも、全員が手をつないで「今日の日はさようなら」を熱唱。1時間の交流でしたが、心に残るひと時でした。「喜んでもらえましたか」。職員に感想を聞くと、「皆、毎回楽しみにしており、私たちも助かっています」と感謝の言葉が返ってきました。



神戸明生園での活動は月1回、もう15年になりますが、悩みは登録メンバーの減少(現在7人)と高齢化。継続していくには世代交代が欠かせない状況です。グループの発足はH7年。神戸明生園へはH10年から。ここのほか、2施設で活動しています。問い合わせは宮城(078-521-3391)まで。取材を終えて 知的障害者との交流、中でも重度の人々との触れ合いは難しさが伴いますが、気負わず、無理強いせず、あくまで自然体で接する皆さんの姿に感動しました。

(取材 井口久美子・写真 竹富利美)